

② 安心、便利、気楽に住める和田多中町を築きましょう!! — 安全・安心メモの普及 —

和田多中町自主防災会（高崎市）

団体概要

設立年度：平成20年度
人口：1,116人
世帯数：537世帯
（ともに平成23年4月1日現在）



▲自主防災会旗を掲げる清水会長

地域の状況

地理的状況：平野部

地域の概況：高崎市の中心部に位置する旧来からの住宅密集地であり、国道17号が東西に走り、道路の交通は昼夜ともに頻繁である。町の南側には、1級河川の烏川が南北に流れている。

過去の災害：烏川に隣接しているが、これまでに大きな災害の発生はない。

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

●自治会の活性化を図るため、毎年新しい事業を取り入れ安全・安心のまちづくりを目指している。風通しが良く、自治会活動を身近に感じられるように、広報「和田多中」（町広報）をこれまでに50号発行している。新潟県では、度重なる地震で大きな被害を被り、それぞれの被災地において、近所どうしの助け合いの重要性が報じられているが、これを受けて和田多中町自主防災会が結成された。

（結成の際に苦労、工夫したこと）

●町内は3地区に分かれているが、住民協議会を招集し、自主防災組織を結成するための協力要請を行い、1年がかりで組織を立ち上げた。

●役員会議で「自助、共助、公助」の重要性についての話題を積極的に取り入れて、地域防災力の向上を目指すために啓発活動を展開した。

（行政の関わりなど）

●班長を中心とした研修会を開催する際には、高崎市役所防災担当部署との連携や指導を受けた。

○特徴的な取り組み内容

●自治会活動＝自主防災活動と意識し日常活動を行っている。班長中心の地域づくりを基本としている。月2回の広報高崎等を各家庭に配付する時には、全戸に「声掛け」し、安否の確認に努め、不在者宅では郵便ポストの滞留状況をチェックし、異状の場合は、区長へ通報することとしている。

●「和田多中町 安全・安心メモ」を希望者に配布し、災害時要援護者を把握し対応している。

●自主防災会の主要役員は、12名の町内会役員が兼ねており、月に一度の定例会で日常的に自主防災活動をコントロールしている。

●町内にある事業所、学生寮等の16カ所と「何かあった際の援助と避難所としての協力」の協定を独自に締結している。

（避難計画）

●災害時要援護者を安全・安心メモ等により把握し、現在では、マンツーマンで避難等の対応ができるようになっている。

●一次避難場所に避難する際には、各地区で2カ所の事前集合場所に集まって、安否確認を行う計画を策定している。

（行政の関わりなど）

●市役所、地元消防署及び消防分団から、炊き出し、装備品の使い方、AEDを使用した蘇生等の訓練実施の際には指導を受けるなど、連携を図り対応している。



▲自主防災会の訓練の様子



▲炊き出し訓練の様子

○組織の形態

会長（区長） - 副会長 - チーフ（12人の役員）各班（医療班には医師、看護師が編成）

○活動の成果や問題点など

【よかった点など】

- 町内の中で「何かあったら」相談されるような人間関係が醸成されてきた。
- ガス等が使えなくなったことを想定し、自主防災会が備えている鍋、釜を使用し、薪で炊き出し訓練をすることができた。

【苦勞した点など】

- 一人でも新しい人に参加してもらえるよう早い時期から「町内会報」に事前案内を掲載するなどのほか、大きな行事の前には、役員12人の結束を強めるために連絡会議を開催するなど、組織の活性化に向けた工夫をしている。

（行政の関わりなど）

- 防災訓練の際には、地震体験ができる起震車や初期消火訓練を行うための資材等の提供を受けるなど連携を図って対応している。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

- 現在、防災訓練に50～60人の地域住民が参加しているが、今後は、100人以上の住民が参加できるような訓練としたい。

【課題解決のための取り組み計画】

- 地区ごとの責任者が不在であっても、何かあった時には、計画どおりに活動できる自主防災会にしたい。自主防災会で保有する装備品を誰もが使いこなせるようにする習熟訓練を取り入れていきたい。

（行政の関わりなど）

- 何かあった時には、区長がいつでも使用できるように、避難所となっている地元の小学校体育館の鍵の所在を把握している。
- 和田多中町には、防災行政無線設備がないため、高崎市の安全・安心メールを活用して、防災対応に役立っている。
- 効果的な活動を展開するために、今後も行政機関との連携を図っていきたい。